

# マンション防災マニュアル【概要版】

## 地震への備えと自主防災体制設立のススメ



### 1. マンションの特徴

地震発生時、マンションで考えられる特徴は以下のとおりです。これらの特徴を踏まえた事前の備えや対策が必要です。

#### ○高階層での揺れの増幅

高階層は揺れの程度が低階層より長く大きくなりやすい傾向があります。そのため、家具の転倒や散乱による被害やけがに遭う可能性は高くなります。

また、揺れの程度が長く大きくなることで、地震による建物の損傷の他、窓ガラスが割れ怪我をする、玄関や窓のドアが歪み開かなくなるといった被害が考えられます。

#### ○ライフラインの供給停止による日常生活への影響

建物に被害がなくても、配線・配管が損傷し、電気・水道といったライフラインの供給がストップしてしまう可能性があります。

特にエレベーターの停止により、高階層に居住している住民や高齢者は飲食料や物資の運搬で負担が大きくなります。

### 2. 自宅での居住継続 ～在宅避難～

震災後は、家屋の焼失や倒壊で住居を失った方々が、避難所での生活を余儀なくされます。このため、避難所は人で溢れかえり、プライバシーの確保が極めて困難で、ストレスや過労から体調を崩してしまうこともあります。また、感染症の感染リスクも高まります。

耐震性の高いマンションの場合は、避難所への避難の必要性が低いと考えられます。

可能な限り住み慣れた自宅での生活の確保を目標としましょう。

#### ○家具の転倒防止

過去の震災において、けがをした方の多くは家具の転倒などによるものでした。家具の固定や配置の見直しを行いましょう。窓ガラス等に飛散防止フィルムを貼りましょう。（外窓には台風接近時の暴風対策にもなります。）

□家具の転倒防止



日進市ホームページ  
関連ページ QR コード



## ○食料、物資の備蓄

地震は、いつ発生するかわかりません。いざという時のために、日頃から備えをしておきましょう。高層階に居住されている方は、エレベーター停止に備え、食料等を少し多めに準備しておきましょう。

□食料、物資の備蓄（食料・飲料水は最低3日分、できれば1週間分を）



## ○トイレ対策

水道が止まったり、排水管に破損があるとトイレが使用できません。破損した状態で使用すると上階層で流した汚水が、下階層で漏れてしまう可能性があります。設備の安全点検が終わるまでは、水は流さず、代わりに、水を使用しない携帯用トイレや簡易トイレを備えておきましょう。

□携帯トイレや簡易トイレの準備



## ○エレベーター対策

□地震時の安全装置がついているか事前に確認（揺れを感知すると自動的に最寄階で停止）

□全ての階のボタンを押し、停まった階で速やかに降りる。

□自力で脱出しようとするのは危険なので絶対にしない。

□閉じ込められてしまったら、「非常電話」ボタンを押し、救助を待つ。

□避難する場合でも、エレベーターは利用しない。



## ○避難口の確保

□揺れが大きいと感じたら、ドアや窓を開け、避難口を確保する。

□開かなくなった扉をこじ開けるためにボールなどを用意する。

□避難はしご等の設置場所、使い方を把握しておく。

□避難路にオートロックの出入口がある場合、停電時の解除方法を確かめておく。

□自宅のドアなどに避難したことがわかる貼紙をする。



## 3. 自主防災体制の設立

入居世帯個別での備え以外に、マンション全体での備えが必要です。管理組合等を通じて自主防災体制を設立し、地域の自主防災組織と連携して、大地震に備えましょう。地震等によりライフラインが停止した場合の対応、入居世帯の安否確認、配給物資の受け取り、被災世帯への支援などを全体で協力して行える体制を作りましょう。



日進市生活安全部防災交通課危機管理係  
〒470-0192

日進市蟹甲町池下268番地

TEL 0561-73-3279

FAX 0561-74-0258

E-mail bousai@city.nisshin.lg.jp